

ワークショップ

ことばの研究 -方法と実践-

2026年3月18日（水）14:00-17:45

鹿児島大学法文学部 1階 ラーニングコモンズ 1

理論や技術の発展で、ことばの研究も近年さまざまな研究法が登場してきました。このワークショップでは、これからどのような視点でことばを捉えていけばよいかについて、研究の新たな方向性を示すこと、そして研究成果の実践報告から考えます。

14:00-14:05 趣旨説明

14:05-14:35 言語変異と記号論（太田一郎 鹿児島大学）

14:35-15:05 媒介された視線はいかにコミュニケーションを構成するかー中国のライブ配信を事例に（陈昕懿 鹿児島大学大学院）

15:05-15:35 社会実践としての職場談話研究：タスク場面から話し合いまで（吉田悦子 滋賀県立大学）

15:45-16:15 日本語方言の文法システム研究：記述とコーパス（宮岡大 鹿児島大学）

16:15-16:45 「問い」を作る意味ーことばと意識に関するアンケート調査票作成から（中島祥子 鹿児島大学）

16:45-17:45 全体討論（コメンテーター：朝日祥之 国立国語研究所）

問い合わせ：鹿児島大学 太田一郎（iota@leh.kagoshima-u.ac.jp）

このワークショップは科学研究費（21K18116, 25K04095, 25K16285）による成果の一部です。